

生徒指導委員会

一 研究テーマ

児童生徒理解の上に立った予防的開発的な児童生徒指導はどのようにあったらよいか。

二 テーマ設定の理由

日頃、児童生徒を取り巻く環境に起因するトラブルなどの諸問題を未然に防ぐとともに、問題発生時の対応の重要性を感じる。そこで当委員会では、各校で行われている取り組みから児童生徒理解や学級作り、支援体制、対応策についての具体的な調査研究を行い、児童生徒指導の手立てを探っていきたいと思い、本テーマを設定した。

三 研究の経過

各校の事例から「予防的開発的な児童生徒指導」に関わるお互いの実践を紹介し合い、共有、共通理解、対応策など意見交換をする中で、生徒指導にむけての方向性を確認した。

四 研究の内容

1 情報共有カードの活用を通して「チーム」として機能する職員集団を目指して

A 中学校での過去の実践から

(1) 生徒指導の課題

学校全体は年々落ち着いており、現在は授業中に教室内外を出歩くような生徒は一人もいない。生徒は明るく、大人数の中で切磋琢磨しながら学習や部活に取り組んでいる。

一方、これまでにいじめ経験、集団不適應、不登校、学級崩壊等を経験してきている生徒も多く、人間関係上のトラブルから不適應をおこす生徒も少なくない。また複雑な家庭環境を背景とした心身の不調やDV等により、児童相談所や医療機関・市の家庭支援課などの関係機関と連携した対応が必要な生徒指導事案が多い。

教師集団に目を向けると、それぞれの職員が懸命に対応しているにも関わらず、日々起きる事案に対応することに追われて日常の生徒理解や予防的な指導に手がまわらない姿や自分で解決しようとして抱え込んでしまう学級担任の姿、さらには自分の学年のみに目が向いてしまい他学年の指導を否定的にとらえてしまう姿などが見られ、一人一人の生徒理解を全体に生かす「チーム」となりきれていない現状があった。

(2) 「チーム」として機能する風通しのよい職員集団づくり ～情報共有カードの活用～

①情報共有の徹底

チームとして機能する「風通しのよい職員集団づくり」をめざして、学校内で「何が起きているのか」をお互い情報共有する事が大切だと考え、以前から取り組んでいた情報共有カードの徹底をはかった。より迅速に「だれが・いつ・どこで・何をしていた・どうなった・対応と課題」を担当した学年・職員が記録して、生徒指導主事が全体を把握しながら、各学年に回覧するシステムとして、全職員で再確認をして実践した。前年度には171件もの情報共有カードが報告されているが、見方を変えれば先生方が小さなトラブルも見逃さずに記録し、全職員で指

導や課題を共有するようになってきた成果であると考えられる。生徒理解の上でも、同様な事案に対する共通の指導の方向を確認する上でも効果的で、他学年職員が学年を超えて関わったり、一人で抱え込みがちな学級担任への参考や支援となったりしている。また、他職員から生徒への声かけで「え！なんで知ってるの」「先生たちみんな同じこと言う・・・」といった学校全体で生徒指導に取り組んでいるという印象を生徒に与えることにもつながっていった。

②情報共有カードの分析を生かす

時期によって生徒指導事案が集中する傾向があったので、時期と起きる生徒指導事案は大きく関連していると考えて、過去の情報共有カードを分析をした。そして本年度の学校行事や生徒指導における時期別の重点指導を考えた。

本校では5・6月は、1・2年生に人間関係の変化に起因するいじめやトラブルが多い。入学やクラス替えによる人間関係の変化が大きな要因になっていると考えられる。夏休み以降は不登校や家庭内トラブルに起因する関係機関への相談や支援会議が急増する。また、SNSがらみの事案は休日や長期休業をまたいでの事が多く、ケガや自転車等の事故や苦情は部活動が行われずに早く下校する日や週末の金曜日に多く発生している。

そこで、学級づくり・人間関係づくりに重点をおいた

1・2年の宿泊行事を5・6月に位置づけ、実施してきた。また、職員会で「5・6月は人間関係づくりにもっとも力を入れる時期」として、過去におきた事例をもとに、教室での見届けを大切にした指導の充実を呼びかけた。交通安全に関わる下校指導では、交通安全係と相談して、職員会のある日に職員会の時間を遅らせて、全職員で街頭に立ち下校指導を実施した。さらに、夏休み前には生徒指導係を中心にSNSに関わる講演や指導を重点的に取り上げた。

(3) まとめ

生徒指導情報共有カードの本年度の一学期の件数は26件である。前年度の72件より件数的には大幅に減少しているが、昨年度と違う時期（具体的には7月中旬以降）に人間関係のトラブルやいじめ事案も出てきており、一概に時期に対応した生徒指導が成果を上げているとは言えない。今後も常に危機感をもち、生徒理解の上に立ち、アンテナを高く張り、小さなトラブルも見逃さず、その原因がどこからきているかを推察する感覚を大切にしていきたい。

(情報共有カードの分類)

大分類	【月ごと】	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
教育相談・保護者面談		2	2	1						2		2		9
他機関等情報共有		3	5	5	2	2	6	10	5	8	3	4	2	55
いじめ・いたずら・からかい		2	4	4	2		3	2	1	7		1		26
人間関係トラブル		2	4	3			1		1					11
自転車等交通事故・違反		1	2									1		4

大分類	計
教育相談・保護者面談	9
他機関等情報共有	55
いじめ・いたずら・からかい	26
人間関係トラブル	11
自転車等交通事故・違反	4
SNS 等	6
不要物	5
所在不明・帰宅遅れ・無断外泊	2
器物破損	15
不審者	4
続報	16
その他	18
計	171

SNS 等	1	1		1			2	1					6
不要物	1		1			2			1				5
所在不明・無断外泊	1			1									2
器物破損	2	4	2				1		1	3	2		15
不審者			1					1		1	1		4
続報		1	1			3	2	1	2	1	4	1	16
その他	3	3	2	2	1	2	2		1		1	1	18
計	18	26	20	8	3	17	19	10	22	8	16	4	171

2 B小学校での外国籍児童への対応

B小学校日本語指導教室に通う児童の様子

(1) 日本語教室について

諸外国から入国し、日本の工場等で働く外国籍の住民が増えている。B小では、今から13年前に、日本語教室が設置された。外国籍の児童が日本で安心して生活できるよう、日本語が不明確な子にはまず日本語から、日本語はある程度分かっている子には算数の問題がよく分からない子には算数をと、個別指導で対応している。

今年度B小に通う外国籍児童は今までより多い。日本語教室担当の職員は4名。

この教室に通う児童は、普段は原学級にいて、国語、算数などの授業の時には、日本語教室で詳しく説明を受けながら学習している。

原級にいる日本国籍の児童は、B小には外国籍の児童がいることは当然ととらえている児童が多いと感じる。外国人だから気を遣うこともなく、日本語をうまく話せないところをからかうといったこともほとんどない。言葉の違いなど気にせずしゃべっていたり、一緒に遊んだりしている。むしろ大人の方が気を遣っている状況である。

(2) 外国籍児童に関わる指導上の問題点

- ・教室内ではできるだけ日本語で指導してはいるが、どうしても伝わらない場合は母国語や英語で話す。児童によって言葉が違うので指導が大変。その都度調べている。
- ・国によって考え方・習慣・生活などが違うので、日本の学校での生活に理解を示さない保護者が多い。保護者への緊急連絡も難しい。通訳担当の職員に電話してもらっている。
- ・欠席の連絡がない事がある。
- ・給食費・学年費などの徴収が滞ることがある。督促をしてもすぐに対応してくれない。
- ・友達と遊ぶ約束をしても、平気で約束をやぶる子がいる。連絡のしようがなかったのかもしれないが、後日になっても謝ることもない。友達が悲しんでいることがなかなか理解できていない。
- ・保護者は、労働環境や住居などがよい条件のものが見つかり、すぐに転出・転入をくり返す。計画的・長期的な指導が難しい。
- ・日本に定住することを考えている保護者が多いので、将来を見据えて多少厳しく指導はしているが、意図が伝わらず、嫌がったり、すぐにあきらめたり、学校を休んだりする子が多い。
- ・学区外から通っている子も多いためか、保護者の自動車で送迎してもらっている子が多い。その自動車を近隣のコンビニなどに無断で長時間駐車していることがあり、店から苦情が来るこ

とが多い。保護者に話をしてもなかなか理解してくれないことが多いが、連絡を継続している。

- ・下校時に、歩いて帰るのか、迎えの車がどこに来るのか、はっきりしないままの子がいる。歩いて帰ることが大前提だが、用事があって迎えに来てもらう場合、きちんと家庭で下校方法を確認してから家を出るように指導をしている。また、約束した時間になってもお家の方が表れない場合には、迷わず学校に戻り、職員に事情を話すように指導している。

(3) 職員として気をつけていること

- ・日本語を覚えてもらうため、ゆっくり、はっきりと日本語を話すようにしている。
- ・偏見は持たないように気をつけている。
- ・「日本人として必ず覚えておこう」とか、「日本人なら分かるはずだ」といった、日本人だけががんばればよいといった言葉を言わないように気をつけている。
- ・個人情報等の機密保持。

3 生徒指導情報共有のあり方について (C中の実践から)

(1) 昨年度までの課題

数年前までのC中は、授業中に離席をする生徒も少なからずおり、清掃用のほうきで天井をつつき、穴を開ける生徒や教員に対しても反抗的な態度を取る生徒がいるなど、生徒指導的に困難さがともなう学校であった。

現在ではそのような問題行動は少なくなり、どの生徒も教員の指導にも素直に従い(表面的には)全体的には生徒指導に困難さを感じることは少なくなった。しかし、それと同時に新たな課題が浮き彫りになってきた。

本校では、隔週で各学年の生徒指導担当教員が集まり、問題行動の減少とともに情報交換の量が少なくなり、他の学年の現状について情報を得ることが少なくなってきてしまった。

そこで、本年度より、生徒指導の係では、「生徒の様子」を各学級担任、副担任、教科担任、誰でも書き込むことができるエクセルのシートを作り、気になる生徒について誰でもいつでも書き込み、またその情報を得ることができるようにした。

(2) 本年度の取り組み

4月17日職員会 共有したい生徒の様子		
対象	出来事	願い等
3-3	過去のいやな思い出が起因となって突発的な行動を取ることがある。 言葉での指示は通りにくい。文字や図で示す。	授業中に自下やトイレなどで泣いている姿を見かけたら、学年職員もしくは[]に連絡してください。また、その際近くに他の生徒がいる場合は授業に真向のように促してください。その際、情緒的な対応は避けてください。
	注目行動が多い。けがや体調不良がたいしたことでもなく、不調を訴えているうちに本意になっていく特徴が見られる。自律神経をコントロールする能力を持っている。	話を聞いてやると安心する。不調を訴えたときは、学級担任に連絡してください。
	不要物を持ってきたり、心ない言葉を投げかけたりする。	一ファーフ言わないと理解しない。ローソン・セブンイレブン男なので、あきらめずに繰り返し指導する
	スカート丈が短かったり、髪の色が赤かったりする。意地悪なところがあり、言葉やラインの書き込みで攻撃する	こまめに声をかける。正しい行動をしていたり、活動に一生懸命取り組んでいたりしたら褒めてやると、喜ぶ。かわいがってやるとかわいらしい面を見せる
	学習不振	授業では個別に声をかける
色覚異常	黒板の赤いチョークは見えないので、基本的に白い色の長句と蛍光黄色のチョークのみを使ってください。	

(↑学級の様子シート)

ファイルには「学級の様子」「生徒指導報告」「不適応」の3つのシートが用意してあり、どのシートも生徒の様子、今後の指導について全体で共有したいこと、が書き込めるようになっている。書き込んだ情報については、職員会でも共有されるが、いつでも見ることができるので、授業で気になった生徒や普段と様子が違う生徒について新しい情報をいつでも共有することができる。また、生徒の様子だけでなく、担任の願いも載せてあることで、一人一人の生徒にどのように全職員が接してあげれば良いのかを共有することができ、全職員が同じ歩調で個々の生徒に接することにつながっている。

7月生徒指導一覧					
Who	What	Where	When	How(指導)	
	6/28 下校時に、デリシア付近の自動販売機で他の生徒2名とともにジュースを買っていたという目撃情報あり。		6/28	7/2 に堀内Tからの情報提供をもとに本人に確認するが、本人は否定。(祖母の車で迎えに来てもらったときに2回ほど、別の場所でジュースを買ったことはあったとのこと。)家庭連絡。 7/3 1学年各クラスで、下校時の買い食いについて注意する。	
	7/8 腹痛を訴え欠席。放課後、母親とともに来校。話を聞く。 6/28 期末テストの朝、机の中に入れてあった家庭科の教科書が破られていたとのこと。そのことが気になって、テストに集中できずよい点が取れなかったと言う。母親には、数学の再テスト見せ、実際のテストは見せていなかった。(数学、理科、英語のテストが行方不明とのこと。)			7/8	・何かあったらすぐ知らせるように話す。「クラスの中では、[]の味方になってくれる人がほとんど。同じようなことをなくしていくためにも、話してほしい。」と伝える。 ・「テストがすべてではない。これだけ取れていれば大丈夫。すぐ結果に表れなくても頑張ることが大事。」と励ます。
2-1	[]の母の迎えを待っていたところ、[]の母が来て、[]に自動販売機でジュースを買い与えた。その際、周りにいた生徒にも、ということで []に千円札を渡し、[]が周囲の生徒のぶんも自動販売機で買った。もらった生徒達は欲まらずにそのまま持ち帰ったが、[]は誘いを断って自分の金で購入し、その場で飲んだ。[]は []からもらった金だと言っている。	北小との間の	7/2 18:40ごろ	7/3朝に []で関係生徒から聞き取り。[]にはその場で飲んだことについて担任から指導。	
	[]が「こいつ頭いいけど頭おかしい」と []に言った。	2-1教室	7/2	[]の母からは個人名を出さないでほしいとの訴えがあったため、[]に対しては別件指導(人権作文丸写し)の際に、言葉遣いやからがいに気になっている人がいるようだと言指導。	
	カンニング疑惑 (英・国で隣の []の答案に酷似)	2-1教室	6/28	7/2朝に聞き取りを行い、国語のテストの一部も解かせてみたが、半分程度解けないものの、本人には断固否定。今回はその言葉信じるが、状況的にはどの教科担任にも疑われても仕方がないという旨を伝えた。	
	スマホ持ち込み(7/19と7/22に教室で通知音が鳴る) 保護者の迎えを呼ぶために、保護者も承知の上で1か月ほど持ってきていた。通知音が鳴ったことで全体に呼び掛けて発覚。	2-1教室	6月下旬から 発覚は7/22	事情を聞き取りの後、保護者を学校に呼んで返却。帰り道で保護者の迎えを呼ぶ以外の使用はしていないということだが、どうしても必要であれば申請をするように指導。	
	2-1の事案と同じ	2-1の事案	2-1の事案	2-1の事案	2-1の事案と同じ

(↑生徒指導報告のシート)

(3) 今後の課題

このシートのおかげで個々の生徒の現状を知ることができ、どのような指導が有効か全体でも考えることにつながっている。また、以前までは口頭での情報交換と知った内容をそれぞれの先生方がメモをして情報を共有していたため、生徒への指導にもばらつきがあったが、現在は統一歩調で指導に当たることができている。しかし、どの程度の情報まで書き込むかというところで先生方の中で若干の温度差があるように感じられる。また、多忙な担任の先生の中には、書き込んでいる時間がなく、情報を表に出すことができないという先生もいるように見受けられる。現在はほとんどを学級担任が打ち込んでいるが、もっと他の教員が情報を発信できるようにしていきたいと考えている。

また、教科担任が授業中に指導していて困難を感じる生徒や、今まで対応に苦慮していた生徒
生徒指導 5

に授業中にこのような手立てで行ったら、うまくいった、また、授業などでは怠学の傾向にある生徒が部活ではこのような姿を見せている、清掃の時間には誰よりも一生懸命取り組んでいる、など、前向きな事例、または生徒の肯定感にもつながるような情報も共有できるようになると、さらにこのシートは有効なツールになってくると思われる。

4 生徒指導委員会 「アセス」 取り組み中間報告

(1) アセスとは

「学校環境適応感尺度」の頭文字を取った造語。

生徒（学級）のよりよい理解のために、根拠を持って予防的手立てを打つために、生徒のアンケートから6つ因子を尺度として、評価する方法。

*利点は無料である事 エクセルのデータで利用できる（その分若干の手間はかかる）

6つの因子

【生活満足感】 生活全体に対して満足や楽しさを感じている程度。総合的な適応感を示す

【教師サポート】 担任の支援がある、認められているなど、担任との関係が良好だと感じている程度を示す

【友人サポート】 友からの支援がある、認められているなど、友人関係が良好だと感じている程度を示す

【向社会的スキル】 友への援助や友だちとの関係をつくるスキルをもっていると感じている程度を示す

【非侵害的關係】 無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友だち関係が無いと感じている程度を示す

【学習的適応】 学習の方法もわかり意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示す

(2) D 中学校の取り組み

実施計画

1 アセスの理解 実施計画	5月職員会 2回	アンケート実施の確認 アンケート質問内容の検討（生徒指導係）
2 第1回 アンケート実施	6月中旬から7月中旬 *アンケート結果は生徒、家庭 には戻らないことを伝える。	・アンケート実施時間20分程度。 学・総・银杏タイムを使って行う。 支援、中間もその学級で行う。
3 集計・分析	8月 夏期休業期間 職員研修の場面で行う。	①集計 各学年で専用エクセルシートに番号を 記入しデータの処理を行う。 ②担任が「07学級内分府検討シート」を記入する。 ③学年で「08個人特性検討シート」を記入する生 徒を決め記入する。
4 第2回 アンケート実施 集計	10月中をメドに。集計を終え る (学校評議員会で結果を伝える ため)	・アンケート実施時間20分程度。 学・総・银杏タイムを使って行う。 支援、中間もその学級で行う。
5 検討	11月中に学年会で 15分程度扱っていただく	処理は係で行います。(集計時間の確保) 担任は「07学級内分府検討シート」を記入する。

		個人相談で活用できるようにする。
6 教育相談	12月1週目 【教育相談】	・「教育相談」の時間で、アセスの結果から気になることの聞き取り・相談を行う。
7 保護者懇談	12月初旬	・教育相談の内容を話題にしてみる。

(3) アンケート実施・結果集計

①アンケート実施・集計

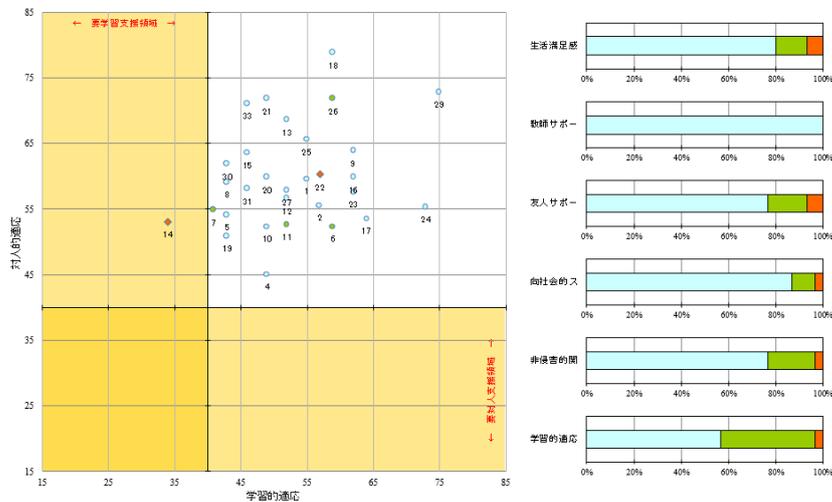
アンケートの実施は各学級で行い、入力と集計は係を中心に行った。1クラス入力に15分程度はかかる

②結果の分析

初めてであったので、夏休みの職員研修の時間に、各学年に管理職も一緒に入ってもらい、結果分析と情報共有をおこなった。(1時間30分の研修)

- ①結果の数値で要支援生徒をピックアップ
- ②生活満足度の低い生徒のピックアップ
- ③アセスの相関分析表を用いて、個人の分析
- ④情報共有と、個人特性分析シートづくり

【1男・2女】	出席番号【 】番	あてはまる	あてはまる	でもない	まらない	まらない
1	あいさつは、みんなにしている	5	4	3	2	1
2	先生は、私のことをわかってくれている	5	4	3	2	1
3	なんとなく気持ちが落ち着かないことがある	5	4	3	2	1
4	勉強のやり方がよくわからない	5	4	3	2	1
5	まあまあ、自分に満足している	5	4	3	2	1
6	落ち込んでいる友だちがいたら、その人を元気づける自信がある	5	4	3	2	1
7	いやなことがあったとき、友だちは慰めたり励ましたりしてくれる	5	4	3	2	1
8	仲間に入れてもらえないことがある	5	4	3	2	1
9	難しい問題でも、どのような答えになるかわざらばり強く考える	5	4	3	2	1
10	先生は、私のことを気にしてくれている	5	4	3	2	1



(4) 実施しての感想など

夏休みの研修で、担任と副担任で学級や生徒の結果を分析している時はずっと盛り上がった。時間のあるときに数字の根拠を持って、学級や生徒について語り合うことはとても有意義であった。ただ分析や、個人の特性分析となると原因が特定できないこともあり、難しさがあった。

また、アンケートや調査などが複数有り「またか」感なぬぐえない。さらに「個別の支援計画」の作成など、やる事が多く担任としては、目的に違いがあまり

年 組	名 中	名 実 施	実 施 日	年 月 日	回 目
A: 要学習支援領域の児童生徒 ※グラフ左寄りの黄色の領域			B: 要対人支援領域の児童生徒 ※グラフ下寄りの黄色の領域		
C: 「生活満足度」が低い児童生徒 ※「生活満足度」が▲(赤) ◆(オレンジ) の順に記入					
支援の重要度・緊急性が高い児童生徒 ※上記のA、B、Cを基に並び替える					
重 要 度 ・ 緊 急 性	1	学習、対人ともに要支援領域で、生活満足度も低い児童生徒			
	2	学習、対人のどちらかが要支援領域で、生活満足度も低い児童生徒			
	3	学習、対人関係は適応領域だが、生活満足度が低い児童生徒			
	4	学習、対人、または両方が要支援領域だが、生活満足度は高い児童生徒			
*グラフの左寄りや下寄りでも、マークの色が青の場合 ⇒ 本人の支えになる場や支援のある可能性が考えられる *比較対上にあるのに、マークの色が赤やオレンジの場合 ⇒ 学校以外の環境での、不適応の可能性が考えられる					
学級内での6側面の適応状態 (児童生徒の占める割合)					

区別できないようすが見られた。

生徒の結果は、年 2 回の教育相談時に相談の内容としても懇談する。結果の数値が低い生徒には、限られた時間の中でポイントを絞って話題にすることができ有効性を感じた。生徒の実態の情報共有（特に問題行動として表れてこない生徒）は、必要感はあるが全職員が感じていながらもできずにいたので、良い機会となり有意義であった。

五 研究のまとめと課題

それぞれの学校の事例や取り組みを互いに紹介し合いながら、情報の共有、共通理解、対応策などを学び深めることができた。A 中学校や C 中学校のように生徒指導情報を全職員でいかに効率的に共有できるか、ということが課題になっている中学校は多いように思われる。そのため、それぞれの学校で工夫しながらより効率的で全職員に同じ情報が伝わるような情報共有の在り方を考えていく必要がある。

また、生徒指導上の問題が起こる前に生徒の様子から少しの異変にも気付けるようにアセスなどのアンケートをもとに生徒の生活の様子を把握し、職員間でその情報を共有することが予防的な生徒指導として重要であることが改めて分かった。

今後、上小管内にも今より多くの外国籍自動、生徒が増えることも予想される。日本語での意思疎通の難しさから困難を抱え、トラブルに発展することも十分に考えられる。今後、そのような機会も想定した予防的開発的な児童生徒指導も考えていく必要があるだろう。

六 委員名簿

推進係 田畑 卓朗

委員 堀内 甲二 細田 和生 柴崎 晃 二村 智